

令和3年8月
備前市・片上まちづくり会議



国指定重要文化財 真光寺 三重塔



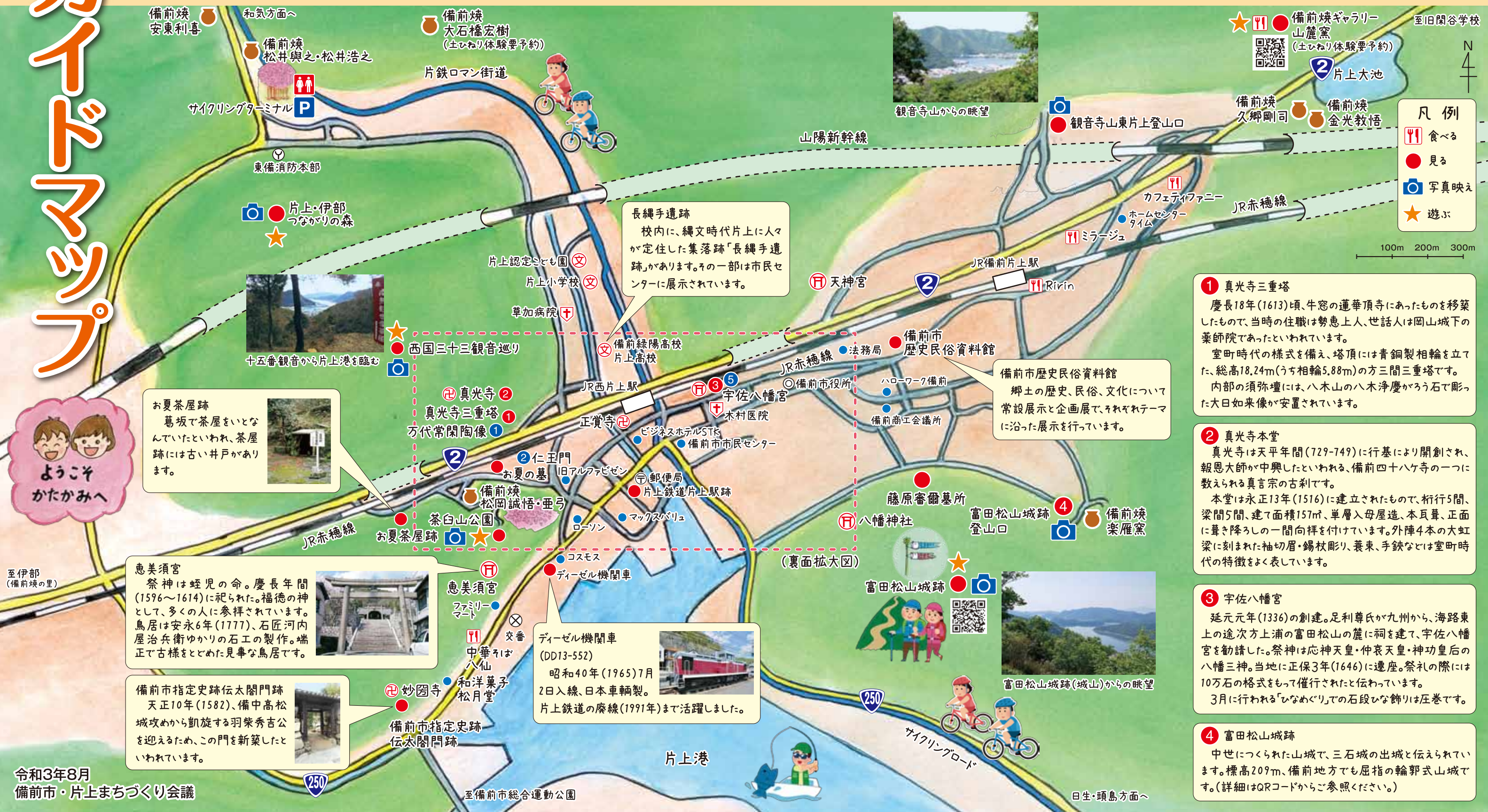
国指定重要文化財 真光寺 本堂



宇佐八幡宮



富田松山城跡登山口



① 真光寺三重塔
慶長18年(1613)頃、牛窓の蓮華頂寺にあったものを移築したもので、当時の住職は勢恵上人、世話人は岡山城下の葉師院であったといわれています。
室町時代の様式を備え、塔頂には青銅製相輪を立てた、総高18.24m(うち相輪5.88m)の方三間三重塔です。
内部の須弥壇には、八木山の八木浄慶がろう石で彫った大日如来像が安置されています。

② 真光寺本堂
真光寺は天平年間(729-749)に行基により開創され、報恩大師が中興したといわれる、備前四十ハケ寺の一つに数えられる真言宗の古刹です。
本堂は永正13年(1516)に建立されたもので、桁行5間、梁間5間、建て面積157㎡、単層入母屋造、本瓦葺、正面に葺き降ろしの一間向拝を付けています。外陣4本の大虹梁に刻まれた袖切眉・錫杖彫り、養束、手鉋などは室町時代の特徴をよく表しています。

③ 宇佐八幡宮

延元元年(1336)の創建。足利尊氏が九州から、海路東上の途次方上浦の富田松山の麓に祠を建て、宇佐八幡宮を勧請した。祭神は応神天皇・仲哀天皇・神功皇后の八幡三神。当地に正保3年(1646)に遷座。祭礼の際には10万石の格式をもって催行されたと伝わっています。

3月に行われる「ひなめぐり」での石段ひな飾りは圧巻です。

4 富田松山城跡
中世につくられた山城で、三石城の出城と伝えられています。標高209m、備前地方でも屈指の輪郭式山城です。(詳細はQRコードからご参照ください。)